



## 「スタートカリキュラム」

前橋市教育委員会教育長 塩崎 政江

今年度の初め、幸運なことに入学当初の一年生の授業を参観することができました。廊下を歩いて行くと、子供たちの楽しそうな声が聞こえてきます。その声に引かれるようにして教室に入ると、ワークシートと鉛筆を持った子供たちが対面しながら互いに話したり聞いたりしています。黒板には大きく「ともだちいっぱい」。インタビューをしながら友達を作っていく生活科の時間でした。

一対一でインタビューしているところに割り込んで入ろうとする友達に、（今はインタビュー中だから）「ちょっと待っててね」と諭す子がいます。友達に声をかけようとしたらもう一人来て三人になってしまうと「じゃあ、三人でやろうよ」と新しいアイデアを出す子がいます。相手を探している様子の子に「ねえ、やろうよ」と誘う子がいます。背の高い子が背の低い子の相手になった時はひざまずいています。幼児期に育まれた「人と関わる力」が授業の中で発揮されています。まさに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の中の「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」の力が発揮されているのを実感しました。

黒板には「すきなたべもの、のりもの」とありますが、実際のインタビューの内容を聞いてみると「好きなディズニーは何ですか」「好きな数字は何ですか」など、興味のあるものを子供が自分で考えて聞いています。まさに「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」の育ちです。

ワークシートにはチューリップ型の枠があり、相手の名前を書いてもらうようになっています。子供たちが自分の名前だけはひらがなで書ける、ということを確認できたので実施したと聞きました。友達のチューリップの枠の中に自分の名前を書き、「ちょっと小さいけどごめんね」「これは、まだ習ってない字なんだよ」などと言いながらうれしそうに一生懸命自分の名前を書いています。「自立心」「文字などへの関心・感覚」「豊かな感性と表現」の育ちです。

授業も終盤に近づきました。インタビューの活動に満足してくると、子供たちは先生が何も言わなくても教室の前の方に集まって座り込んでいます。活動の終わりに近づいていることを感じているようです。先生が「まだやっている人は終わってからでいいよ。終わったら集まりましょう」と言うと、子供たちは先生の周りに集まって座り先生が何て言うのだろうと目を輝かせています。本時のまとめでは、「お友達にインタビューをして楽しかった」など子供たちの感想が発表されました。

休み時間になって、楽しそうに外に出かけていく子供たち。幼児期に育ってきた主体性や自立心が小学校で活かされることは、子供たちの今後の育ちに大きく関わります。参観させていただいたその学校のスタートカリキュラムの冒頭には「0からのスタートではなく、いろいろなことを身に付けて入学してきている」と書かれていました。前橋の小学校でスタートカリキュラムの試みが始まりました。幼児期に育まれた力を活かして、小学校以降の学びをより充実させることがスタートカリキュラムのねらいだと思います。